

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900107		
法人名	社会福祉法人 苗場福祉会		
事業所名	グループホームさくら館		
所在地	千葉県船橋市習志野台8-55-1		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	平成31年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成31年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の立地を生かして、近隣のスーパーや公園に出かける機会を作り、外に出るケアには力を入れている。</li> <li>お客様と一緒に掃除、洗濯たたみ、調理をすることで、お客様をお客様にせず、生活の主役として活躍できる場面作りをしている。</li> <li>お客様がオーダーを取ったり、カレーを作ったりといった役割を持ったオレンジカフェを開催している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1) 昨年、現在地に新築移転した特養とデイサービス併設の複合施設である。2) 研修計画に基づき、研修報告書を提出し個人別受講カードで研修成果の確認、外部研修受講補助やキャリアパス・目標管理・新人プリセプター制度など職員育成に力を入れている。3) 休憩時間の工夫や休憩室の設置など働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。4) 「介護計画実施表」にケアプランを添付し、サービス実施状況を簡単に確認できる書式の工夫により職員が常にプランを意識して支援に当たれるようにしている。5) 古民家風の和のデザインにこだわり、かつ、視界や手すり、動線など安全面にも配慮して設計された新築のホームである。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にしたグループホーム目標を毎年、部署会議で話し合い設定している。そこから個人目標を設定して取り組むことで理念の共有、実践に繋げている。	法人の理念を基に「その方らしい暮らしの支援を提供する」ことをホームの目標とし、生活リズム、できることなど一人ひとりを知り、その方に合った環境を整備することに取り組んでいる。こやまケア:「こまやかな気配り・やさしい笑顔・ま心込めたお付き合い」に基づき自己評価を行い理念の実践状況の確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、毎月オレンジカフェを開催し、地域の方との交流を図っている。	移転以前と同様、地域の祭り、防災訓練や談話室など地域行事に積極的に参加している。ボランティアや中学生の職場体験も継続して受け入れている。毎月苗場オレンジカフェを開催し、入居者がウエイトレス役をし、相談ブースや子どものゲームコーナーを設けるなど、地域の方との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの中で、介護相談を行ったり、医療専門職による講話を開く事で福祉施設として地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では施設の取り組みと地域からのお知らせを共有して、お互いの行事等への参加をさせてもらっている。オレンジカフェのボランティアを願ひし、協力いただいている。	地域包括職員、地区民生委員、ボランティアの方や家族が参加してレジメを用意し運営や事故・身体拘束廃止委員会報告などを議題として2ヶ月に一度定期的に開催している。ホームの取り組みと地域からのお知らせなど活発な意見交換が行われ、会議を生かした取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただき、情報共有に努めている。	地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議メンバーとして出席し、ホームの取り組みや現状をつぶさに見て頂けている。地域ケア会議への参加、ラン伴への参加やオレンジカフェ参加の呼び掛けなど、良く連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を施設の委員会活動として年2回行っている。玄関の施錠は夜間のみとし、身体拘束は行っていない。また、適正運営化委員会を設置して施設全体で話し合う場を設けている。	年2回身体拘束廃止研修を計画的に実施している。法人で高齢者虐待・拘束委員会を毎月開催し、不適切ケア発見報告書などで他部門相互チェックを行うとともに適正化委員会を3か月に一度開催し各所から常に職員の目が届く仕組みができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても施設の委員会活動での勉強会、事例検討会を通して学習する機会を設けている。勉強会は伝達講習も含めて全職員が参加する仕組みとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を利用している方はいないが、今後のために市が開催する外部研修への参加を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的に説明するだけでなく、質問を受けて理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家族様も参加していただき、ご意見を聞く機会を設けている。また、年1回顧客満足アンケートを取ってご利用者様、ご家族様の意見を聞いている。	さくら便りに居室担当者が手書きで入居者の毎月の様子などを記入し送付している。運営推進会議以外にも敬老会やクリスマス会など家族参加のイベントも多くある。また独自に満足度アンケートも実施している。意見や要望も多くいただき運営に反映させている。	取組みや実践していることを家族に十分伝わるように更に工夫されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体会議、部署会議、委員会活動、職員面接などで提案や意見を聞く機会を設けている。	主として毎月のグループホームミーティングで、職員の意見や提案を取り入れ業務の見直しや行事担当に反映させている。年間研修計画に基づき、研修報告書を提出し個人別受講カードで研修成果の確認を行っている。外部研修受講補助やキャリアパス、目標管理制度、新人指導計画・業務指導確認票・総合評価など新人プリセプター制度など職員育成に力を入れている。また、昼食以外に1時間の休憩や休憩室の設置など働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	2ユニットオープン後、新入職員育成の成果が発揮されることを期待しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度、360度評価を導入しており職員の努力や実績によって評価できる仕組みがある。また、産業保健師が月1回保健室を開催しており新人職員には面談を入れるなど心のケアにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはプリセプター制度で不安などを相談しやすい関係作りに努めている。事業計画で各人の力量に合った研修を組み込んで計画的に参加してもらっている。実務者研修を施設で開催しており働きながら学習できる仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オレンジカフェを利用してもらうことで、他グループホームの職員、入居者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、生活状態の把握に努め、要望や不安を聞き取っている。入居後は、居室担当者を中心に、ご本人との関わりの中から情報を引き出し、ケアプランなどに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、家族の希望・不安・要望の聞き取りを行っている。入居後についても面会時、担当者会議時などに要望や希望を聞く機会を設け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご本人・ご家族の思いや状況等を確認し、話し合いの中で支援方法を検討している。その中で他のサービスの必要性がある場合には、情報を提供するなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る中で、人生の大先輩としての敬意を払いながら、その方のできることを見極め、買い物や食事作り、掃除、洗濯などの家事作業や散歩やレクといった活動を通して、入居者同士の関係も築けるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力の大切さを職員間で確認している。家族が参加できる行事を企画し、参加を呼び掛けている。毎月お便りにて様子をお伝えしたり、体調不良時などは電話で随時連絡を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、外食など本人が今まで生活してきた活動が継続できるように支援している。入居後も友人との手紙や電話のやり取りを支援したり、地域活動に参加することで施設周囲の方との馴染みの関係作りにも努めている。	併設のメリットを生かし、デイサービスの職員や友人との交流を継続している。近所の友人が訪ねてくる、家族と外食や買い物に出かけたり、正月を自宅で過ごす支援を行っている。お孫さんと携帯電話で話す支援や手紙のあて名書きや投函などの支援。ケアプランに「友人との交流を続ける、デイの友人・散歩・ドライブ」を入れて馴染みの関係を継続する支援に取り組んでいる例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や状況を見て会話を楽しめるよう席の配置を考慮している。職員が仲介し会話をしたり、レクや家事作業を通して入居者同士が円滑に生活できるような環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養等へ入所された場合でも、今までの暮らしが継続できるように生活環境、支援内容、注意点などの情報を伝え、ご本人や家族の不安が解消できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望や希望などを日々の会話やモニタリングで聞き取りを行うだけでなく表情や伝達困難な方も家族や職員間で情報を共有し、本人の意に沿えるように努めている。	入居者の状態が変わったとき、もしくは半年に一回、計画作成担当者と居室担当でアセスメントを行っている。入居者の言葉や表情から思いを推測し相談の上、入居者の動きや居室内の配置へのアドバイスをもらっている。プランに家事や園芸をとりいれており、「その方らしい暮らしの支援」を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時や会話の中から聞き取った情報を追加しながら、生活歴や生活環境の把握に努めている。またご家族様もケアの一員として面会時などに昔の生活や様子などを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時はご自宅での1日の過ごし方を伺っている。ホームでの生活が慣れてきた頃には、こちらでの生活リズムや残存能力を把握し、現状に合わせた支援ができるよう職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にモニタリング、アセスメントを行うことで、その方の現状に即した支援内容に変更できるようにしている。	短期目標ごとにサービス内容を「介護計画実施表」でチェックしている。ミーティングでは居室担当者を中心に他のスタッフの意見も取り入れて「モニタリング表兼サービス担当者会議の要点」を作成し、家族の意向を聞いてプラン原案を作成し、サービス担当者会議で家族の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人ごとに記入し、支援記録にまとめている。申し送りなどで特変など情報を共有し、ケアの工夫をしたり、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者中心のサービスを心掛けている。必要なサービスがあれば、柔軟に対応できるように、情報収集に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、スーパー、飲食店、観光地など地域資源を把握し、今までの生活歴や気分転換を兼ねて外出支援などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、入院先も含め希望病院を伺っている。入居者全員が日々の体調管理は施設の往診医を希望されており、月2回訪問診療を受けているが、専門医などの受診継続を希望する方や、突発な受診はかかりつけ医を聞いて受診している。	往診前に入居者の情報を医師に伝え、当日の医師の指示を往診記録に記入し、申し送りノートにも同じものを貼り情報共有している。泌尿器科、整形外科、脳神経外科などは家族が同行している。週1回、看護師のチェックもある。急変時には法人内のナースに看てもらうことも可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員がいるため、特変時や異常時には看てもらえる環境にある。GHは非常勤で出勤してもらっており、その際に全員の健康チェックや注意点を申し送っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、サマリーや口頭で情報を伝達している。退院時もカンファレンスから参加し退院に向けての支援や退院後の生活について相談するようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の説明を行っている。状態変化が見られる方には、ご家族様に状態を説明し、今後のケア方針や事業所でできることをお伝えし、住み替えの希望があれば支援を行っている。話し合いの内容については職員間で情報を共有し、同じ方針でケアに当たっている。	「重度化した場合における対応に係わる指針」を説明している。要介護3になった時点で家族に特別養護老人ホームの申し込みの確認をしている。ADL低下時、食べれなくなったときに他施設の紹介をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、AEDなどの勉強会を開催している。グループホームだけでなく夜間は特養職員とも連携を図り緊急時は応援に来てもらうよう体制を整えている。緊急時対応についてはフローを作成し事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での火災、水害、地震についての訓練、地域防災訓練への参加をしている。毎月緊急連絡網を回す訓練をして、マニュアルが実行できるよう確認をしている。	各居室入り口にヘルメットが常備されており、地震想定、冠水想定、夜間と日中の火災想定とそれぞれの避難訓練を行っている。防災マニュアルは適宜改定され、防災委員会は毎月開催、自主検査チェック票「火気関係」は毎日行っている。緊急時には一斉メールで連絡があり、夜間15分以内に到着できる職員が6名いるため、緊急時に協力しやすい状況となっている。地域総合防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法について勉強会を行い全職員が学習している。委員会活動で不適切ケアやプライバシー保護についても呼びかけを行い、職員同士で注意し合っている。	人生の先輩に対しての言葉遣いや態度になるように配慮している。気になることがあるときは、職員間で注意し合えるような環境になってきている。職員更衣室にサービス向上意見箱を設置し、不適切ケア発見報告書を用意しており、早期の段階で報告し対策できるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見を言いやすい関係作りに努めている。飲み物やおやつ、洋服もご自分で選んでいただける機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした支援を心掛けている。ご本人の希望を伺い相談しながら外出や入浴など希望に沿えるよう、職員間で連携を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はできる限り本人に選んでいただき、季節や気温に対して声かけするなどの支援を行っている。理美容は本人、ご家族様に確認し、希望時に散髪ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から食べたい物を伺い、献立に取り入れられたり、季節を感じられるよう旬の食材を使うようにしている。一緒に作り、準備、片づけなども行っていただいている。誕生日には好きなメニューをお出ししている。	朝食は早く起きた方と作っている。昼食と夕食も食材を切ったり、炒めたり、下膳したりと入居者の手伝いがある。調理レクやおでん会など一緒に調理している。管理栄養士の献立に基づき、食材をスーパーに買いに行っている。外食は和食、洋食、ファーストフードに出かけている。月に一度、全員参加でオレンジカフェの受付係も行っている。食事に関わり、楽しむ機会が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。また1日の摂取量を把握し、変化に気付けるように工夫したり、水分も好む物を選べるよう用意したり、ゼリーなどで摂っていただけるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアの支援や声かけをしている。訪問歯科診療を受けており治療や口腔ケアについて歯科医と連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を通して入居者の排泄間隔を把握し、声かけの時間を考慮したり、トイレでの排泄ができる限り続くようにケア内容を変更しながら支援している。入居者に合った排泄用品については居室担当を中心に意見を出して検討している。	全てのトイレは車椅子で利用できる広さとなっており、可動式の手すりが設置されている。入院でリハビリ使用となった方も退院してから布パンツに戻ることができた。立位が困難になっても二名介助でトイレでの排泄を支援していく。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、献立作成時に工夫をしたり、毎日運動する時間を作っている。食事量、飲水量、排便確認を行い、入居者に合わせて飲みやすい物を用意し、水分摂取できるように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を組んでいるが、希望時や清潔保持のタイミングでそれ以外にも入浴ができるようにしている。午前入浴から夕方まで、その時によって入浴時間も変更している。入浴剤や、ゆず風呂など変わり風呂も楽しめるようにしている。	週二回入浴している。入浴剤は三種類用意し、柚子風呂なども含め変わり風呂を楽しめるよう工夫している。洗顔せっけんなどご自身でお好きなものを用意している方もいる。二人介助で入浴する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中は活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの状況などを観察し、必要時には休息を促したり入居者の意志を尊重しながらも、必要な声かけをさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員がいつでも見られるようにしている。薬の変更時には申し送りや記録にて職員間で周知している。服薬手順があり、個別の服用方法や注意についても共有し、統一している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割ある生活を維持できるよう、家事作業など、その方の「できること」に合わせて役割をお願いしている。散歩が日課だった方、将棋が好きな方など今までの生活歴から楽しみや気分転換ができるよう活動にお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに公園などもあるため散歩に出かけたり、希望によってはコーヒーを飲みにカフェに出かけたりしている。毎年、ご家族様にもご協力いただき京成バラ園への外出企画を行い、普段はなかなか行けない場所にも出かけられるよう支援している。	晴れた日は散歩か外気浴、買い物に行く方もいる。散歩コースは2コースあり、屋上と玄関前では日光浴もできる。外出行事が毎月あり、バラ園やアンデルセン公園、初詣や夏祭りなどに出かけている。毎月、家族と受診し外食してくる方もいる。	2ユニットオープン後も日常的な外出支援に取り組み続けることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に説明し、小遣い程度のお金を持っている方も数名いる。所持がない方も買い物の希望時などは立替にて自ら商品を選んだり、お金を支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、電話をかける支援を行っている。お手紙の希望があればハガキの購入、宛名書き、投函など支援が必要なところを手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは過ごしやすいよう温度や照明など気を配っている。 調理を職員と一緒に行うことで音や匂いを感じていただき生活感や、季節ごとに飾り付けを変えることで季節感を感じていただけるように工夫している。	玄関前のプランターには花が咲いており、入居者が水遣りしている。中庭ではスイカ割やバーベキューを楽しむ。屋上では、初日の出や富士山を楽しむことができる。リビングは広く、壁には手すりが設置され、ドアは引き戸、古民家風のデザインで統一され落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席だけでなく、ソファ席も用意し、空間を区切ることで賑やかに過ごしたい時、テレビを見たい時、一人で過ごしたい時など、その時の状況で思い思いに過ごせるよう空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時よりご自宅から馴染みの品物を持参いただき、自宅でのベッド配置なども参考にしながら本人・家族・職員で安全で居心地よく過ごせる設え作りに努めている。	カーテン、介護用ベッド、タンス、エアコン、洗面コーナー、ナースコールが完備されている。入居者はテレビや整理ダンスを持参されている。居室入り口のネームプレートに着物の端切れが飾られ、古民家風のリビングとの統一感を高めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立つ表示はしていないが、入居後、職員が付き添うことで場所を覚えていただき、ご自分のペースで生活をしていただけるようになっている。手すりなども各所に設置し、安全に移動できるような環境になっている。		